

再生可能エネルギーは本当に CO₂削減の切り札か—平群町の事例から

- ・ 日時：2022年 **7月31日(日)**14:00～16:00
- ・ 形式：Zoomウェビナーによるweb配信
- ・ 講師：田中 淳夫氏（森林ジャーナリスト）

CO₂、温室効果ガスの削減にむけて再生可能エネルギーの活用は大きな期待を集めています。石炭燃料を用いた火力発電や原子力発電に変わり、特に固定価格買い取り制度（FIT）の創設以降大規模な太陽光発電設備であるメガソーラーの建設が盛んになりました。その一方、太陽光発電施設を設置するために行われた森林伐採に起因するとみられる土砂流出等の事故も全国で相次いでいます。奈良県平群町では、メガソーラー開発に対し地元では反対の声が上がり、その後ずさんな計画が判明し奈良県は工事の停止を指示しました。

メガソーラー以外にも、県内ではバイオマス発電を積極的に導入する動きが見られますが、これも森林破壊の問題が指摘されています。再生可能エネルギーで環境破壊など本末転倒です。

再生可能エネルギーは本当にCO₂削減の切り札なのか、森林ジャーナリストの田中淳夫氏を招いて ご講演いただきます。

私たちの生活に欠かせない電力の安定供給について、一緒に考えてみませんか。

【田中敦夫氏 プロフィール】

日本唯一の森林ジャーナリスト。

自然の象徴の「森林」から人間社会を眺めたら新たな視点を得られるのではないか、という思いで活動中。

森林、林業、そして山村をメインフィールドにしつつ、農業・水産業など一次産業、そして自然界と科学（主に生物系）研究の現場を扱う。

著書は最新刊の『虚構の森』（新泉社）の他多数。



参加申し込み方法

下のQRコード・URLから参加登録をお願いいたします。氏名・メールアドレスを記載の上、**7/29(金)**までにお申込みください。

登録が済みましたら、講演当日の接続先等を記載した確認メールが「Zoom」より届きます。

<https://onl.sc/rdyV8VV>

